

第 8 回ソーシャルイベント研究会 レポート

■日 時 平成 26 年 4 月 16 日(水) 16:00~17:45

ネットワークパーティ 18:00~20:30

■会 場 日本イベント産業振興協会 会議室

■内 容

・ ネタメッセプレゼン

鈴木純子 澤内隆 成瀬悠

・ まち歩きイベント研究会の紹介

小林政則

・ イベント見本市／岩崎博（エスシー・プランニング・オフィス） 杉本洋文（東海大学工学部）

～東日本大震災を忘れないために、木材を活用した震災の情報拠点～

「復興ステーションの活動紹介」

・ 情報交換 ・ その他

・ ネットワークパーティ



[出席者] 22 名

座長：小林政則（イベント支援ネットワーク）

石井崇（ミドルウッド）、岩崎博（エスシー・プランニング・オフィス）

伊勢谷宣仁（昭和音楽大学）、内田なお子（昭栄プリント）、大根田利夫（ダーツ）

小林勝海（漫画学会）、澤内隆（帝国書院/文教大学）、下村卓爾（パソナ）

杉本洋文（東海大学工学部）、鈴木純子（日本リ・ファッション協会）、田中滋（DEN&A Inc）

成瀬悠（ハロハロ）、根本正（シグナス）、宮地克昌（東京観光専門学校）

原田周平（都市緑化機構）

（オブザーバー）

秋山駿（慶應大学）、荒木薫（オペラ季節館）、下田奈祐（計画・環境建築）

萩原有優（東海大学）

（事務局） 小西功一、菊地浩之

■ネタメッセプレゼン （1人5分）

1) 鈴木純子（日本リ・ファッション協会）

「リ・ファッションコンテスト 2014」

今年で5回目の開催となる「リ・ファッションコンテスト 2014」を紹介。古着を素材に、プロのデザイナーではなく、一般の人のリメイク作品を募集して、一般の人の投票によってグランプリを決定するコンテストの概要と、リ・ファッションの推進によって循環



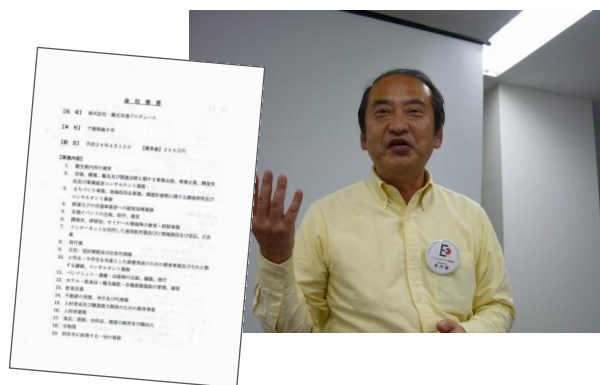
型社会の実現と生活の質的向上を目指す協会の活動を紹介。

(コンテストの詳細は <http://www.refashion.jp/>)

2) 澤内隆 (帝国書院/文教大学)

「新会社立ち上げ発表」

4月10日に設立した新会社、(株)観光交通プロデュースの会社概要を紹介(澤内氏も取締役として参画)。銚子市を拠点に、観光事業や各種イベントの企画立案、コンサルタント業務などを手掛ける新会社にて、ソーシャルイベント研究会のネットワークを生かしていきたいと報告。



3) 成瀬悠 (ハロハロ)

「フェアトレードフェスタちば」

5月11日(日)に実施する「フェアトレードちば」の概要を紹介。世界の貧困問題の解決をテーマに、2009年より継続的に開催し、市民の手作りによるステージやフェアトレードのショッピングコーナーなど、大人から子供まで誰でも楽しめるイベントの内容紹介と来場のPRを行った。

(イベントの詳細は <http://fairtrade-chibant.jimdo.com/>)



まち歩きイベント研究会の紹介 小林政則 (イベント支援ネットワーク)

日暮里・谷中エリアを中心に、屋外で交流をする歩くサロン「まち歩きイベント研究会」(座長:小林政則)の活動を紹介。

今後の開催予定は奇数月に計画中。5月10日(土)「花遍路コース」、7月5日(土)「七夕浴衣コース」、9月はお彼岸の後に「秋の七草コース」を予定している。詳しい内容はメールマガジン「イベント学会ニュース」随時告知。



■イベント見本市

～東日本大震災を忘れないために、木材を活用した震災の情報拠点～

「復興ステーションの活動紹介」

岩崎博 (エスシー・プランニング・オフィス)

杉本洋文 (東海大学工学部)

(概要)

被災地を忘れないために、そして復興の情報を発信するために立ち上げたFacebook ページ「復興ステーション」の紹介と、被



災地への建設を推進する木造建築の事例を紹介。前半は岩崎氏による「復興ステーション」ページ立ち上げのきっかけと、ネットから広げるコミュニケーションについて解説。後半は杉本氏より、国内の木材を活用した「どんぐりハウス」の建設事例と東海大学の学生達の取り組み等を紹介した。

(内容)

◆ Facebook ページ「復興ステーション」について

岩崎博 (エスシー・プランニング・オフィス)

昨年 1 月に、東北の復興に関する報道が極端に減少しているという TV ニュースを見たこと、陸前高田市の戸羽市長の「被災地の復興が忘れ去られている」というコメントを聞いたことをきっかけに、もっと身近でリアルに復興の情報を得る方策として Facebook ページ「復興ステーション」を立ち上げてネット上で呼び掛けを行った。

「復興ステーション」とは、駅、空港、展示会場等の公共空間に、復興の様子を継続的に伝えるキヨスクを設置し、壁新聞を掲示して情報を発信するもの。壁新聞を見ながら家族や友達と言葉を交わし、リアルなコミュニケーションを促すことで復興を後押ししようという発想に基づいている。

このキヨスクは、木材を積み上げる日本伝統の建築の技である組手仕(くてじゅう)を用いたいと考え、木造建築の専門家である杉本洋文氏に協力を依頼して活動をスタートした。

この活動は、助成金を受けて、期限を決めて何かをするという明確な計画はあえて立てず、できる人ができる時にできることをすることを基本に、Facebook を通じて仲間を募り継続的な情報の共有と発信を行っている。



◆ 日本の木材を活用した「復興ステーション」について

杉本洋文 (東海大学工学部)

日本には戦後に植えた木が毎年約 8000 万立米育っている。日本の中で消費されるのもほぼ 8000 万立米。しかし、市場は安価な輸入材が 7 割を占めているため、日本の豊かな森林が放置されている現状。被災したエリアの多くは東北の沿岸部であり、被災していない山の木を活用して復興を促したいと考えている。

東京オリンピック・パラリンピックの開催に向け、様々なスポーツ施設が建設されるが、ぜひ東北の木を使いたい。特に、都内臨海部に建設される施設は塩害に強い木造がふさわしい。選手村も内装を木造化して、日本の文化を世界中に発信する素晴らしいチャンスと考え、関係各所に提案している。



被災地の復興を支援する木造建築「どんぐりハウス」

木造による仮設住宅の建設を各所に提案したが、残念ながら住宅として建設した事例は無い。しかし、公共施設については大船渡市に公民館として建設することができた。建設は部材を組み上げていくシンプルな工法なので、非常にスピーディで被災した年の 5 月には完成している。



仮設住宅としても十分活用できるが、各自治体がプレハブ建築協会と契約をしているために、現在の仮設住宅が建設されることになる。費用は坪 60 万円（建設費 50 万、撤去費 10 万円）がかかっており、通常の住宅と変わらないコストがかかっている。木造ならば、不要になっても再利用ができる。コストは一棟 9 坪程度で、木材費 150 万円～180 万円、木材とビスがあれば建設可能で、誰でも簡単に建てることができる。設計は東海大学チャレンジセンターのサイトにオープンになっている。インターネットで「どんぐりハウス」を検索すると閲覧できる。

(URL : <http://deka.challe.u-tokai.ac.jp/3.11/cp/pg67.html>)

「どんぐりハウス」は工場で加工したものを現地で組み立てるだけなので、建設が非常にスピーディで、博覧会の建設ノウハウが活かされている。

東海大学の復興ステーションプロジェクト 2013

その他、名取市の図書館、南三陸ポータルセンターなど「どんぐりハウス」の建設を通じて、私と学生達は月に 1 回は必ず行くが、現地とこちらとの温度差を非常に感じている。その現状を伝えるために、学生は大学のキャンパス内への「復興ステーション」の建設をテーマにした課題にも取り組んでいる。大学としても震災復興を考えることで、学生を育てる方針も打ち出している。

急速に高台移転を決定した被災地もあるが、進捗状況は思わしくない地域も多い。復興は被災者の気持ちを大切に、一緒に肩を寄せてベストの道を探す姿勢が重要であり、結果として復興を加速させることにつながると考える。

——最後に Facebook ページ「復興ステーション」にアップしている、震災時と復興を伝える斎藤裕馬氏の動画を視聴して終了。

■まとめ (小林座長)

イベント学会では、東日本大震災以降、復興イベント研究会を立ち上げて活動を続けている。会員の福井昌平さんが座長である、政策提言「東北復興博覧会」研究会では、杉本さんもメンバーとして提言活動をしている。

本日プレゼンテーションしていただいた「復興ステーション」について、本日参加している会員の皆さんも何らかの形で関わりが持てると思う。この後のネットワークパーティで交流を深めて「復興ステーション」のアイデア等の議論を交わして、皆さんのビジネスに結びつけていただきたい。

本日の参加者の皆さんには、2 月の大雪のため延期になった群馬県上野村のプレゼンテーション資料をお渡りする。これは、会員の皆さんから提案していただいている「勝手にプロポーザル」を企画書にしたものだが、既に登録している会員は改めて内容のチェックをしていただきたい。まだ登録していない会員の方は、お手持ちのコンテンツやアイデアなどを積極的に登録していただきたい。



ネットワークパーティ

会議室にて 18:00 より実施 参加費 1000 円



「フェアトレードフェスタちば」で購入できる食材を使った手作りオーダブルを持参してイベントをPRする成瀬会員。

★次回、第9回ソーシャルイベント研究会

5月21日（水）16:00～17:45 日本イベント産業振興協会会議室にて開催予定